



FSERC News No. 25

編集・発行：京都大学フィールド科学教育研究センター
 住所：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
 TEL：075-753-6420 FAX：075-753-6451
 URL：http://fserc.kyoto-u.ac.jp

2011年12月

社会連携ノート

東北復興学生ボランティア

海域陸域統合管理学研究部門 佐藤 真行

2011年8月26日から30日までの間、フィールド科学教育研究センターは京都大学の窓口となり、学生21名と教員1名、技術職員2名、事務職員1名を宮城県気仙沼市の西舞根地区に派遣し、東北復興支援ボランティアに従事した。気仙沼は、フィールド研社会連携教授の畠山重篤氏が「森は海の恋人」運動を展開する拠点であることから、京都大学ならびにフィールド研としては、その復旧・復興を切に願う地域である。

今回のボランティアは、畠山重篤氏と松本紘総長ならびに柴田昌三センター長との懇談に基づき、全学として気仙沼地域の支援を進めることを前提としながら、同時に教育的配慮を加味したものとして計画された。従って、活動内容も、「海の回復は森の回復から」という森里海連環学のコンセプトをなぞるものとし、労働ボランティアだけでなく、地域の復旧に資するような調査を進める研究ボランティアも組織された。

26日早朝、時計台を出発した一行はバスで一路気仙沼に向かった。15時間近くの長距離移動であったが、無事に宿泊地「ひこばえの森交流センター」に到着した。ここは西舞根地区から直線で20km離れた岩手県一関市の室根地区であるが、「森は海の恋人」運動で植樹を実施しているところでもあり、気仙沼における森里海連環の「森」に相当する場所である。

翌27日は、その「森」における植樹活動から始まった。「ひこばえの森」にて広葉樹約70本を植樹した。午後は舞根湾に移動し、津波により消失した養殖筏を製作するための杉丸太

の山出しに従事した。

28日は、前日に山出しした杉丸太を使って筏づくりに従事。大きさ18m×12mの筏を製作した。午後からは、水山養殖場の対岸にあるカキ研究所の被災家屋の瓦礫を撤去し清掃した。夕方には、満潮を利用して、製作した筏を海に送り出した。この日の夕食後、畠山信氏から震災時の体験と、西舞根における復興活動についての講演をいただき、学生諸氏は真剣に聞き入った。夜遅くまで質疑応答に最後までお付き合いいただいた畠山信氏に心より御礼申し上げます。

29日、午前は引き続き被災家屋の瓦礫の撤去、午後は牡蠣の種をロープに付ける作業に従事した。実際の作業はこの日で終了であったが、森から海にかけての作業に関わることができ、「森里海連環」に沿った一連の活動が完遂された（なお、2名の技術職員は、3日間とも杉の伐採作業に従事した）。

30日、東北地区の今後速やかな復興を祈りつつ、帰途についた。前夜は、畠山氏やひこばえの森センターの三浦氏らのご厚意により、地元の肉や魚の食事とともに労をねぎらっていただいた。その他にも現地の方々には温かな交流をもたせていただいた。そして、夜9時過ぎ、誰一人病気・怪我することなく京大時計台に到着した。



筏の製作



ボランティアを終えての集合写真

以上のように第一回ボランティア派遣は終了したが、いうまでもなく東北の復興は終わっていない。今後の支援にあたっては、ボランティア活動もますます充実させていかねばならない。そのために、今回参加した学生たちは、有志で引き続き支援に向けての知恵を出しあっている。共感できる方は、ぜひ協力し合って、出来る限りの支援をしていくことを願う。

徳山試験地における周南市との連携事業

森林環境情報学分野 中島 皇

試験地では2010年から地元周南市との連携事業を開始しています。2008年度に「ふるさと文化財の森（檜皮）」に選定（ニュースレター No.14参照）されたことと、試験地が元々徳山町（当時）から土地の寄贈を受けてスタートしたことが大きな契機になっています。特に2代目試験地は現在の周南西緑地にあって、京都大学演習林が植えた樹木が今も立派に生育しており、市民の憩いの場となっています。

文化庁の「ふるさと文化財の森」に選定されたことで、試験地と周南市教育委員会との情報交換が行われるようになり、



「みどりの案内人養成プロジェクト」特別講座・講義（2010年度）

市民を対象とした見学会などを開催するようになりました。教育委員会から「公園花とみどり課」を紹介頂いて、同課が事務局となり西緑地で2008年度から継続されてきた「みどりの案内人養成プロジェクト」の特別講座として、年3回の講義とフィールド見学を徳山試験地で行う計画を立てました。ふれこみは「京大の全学共通科目である森里海連環学や森林学の講義を1コマ（90分）を無料で聴講できる。」です。次年度にも形は変わっても3回の講義を行うことが約束され、2011年度にはフィールド研・周南市の連携講座として3回の講義が実施されました。

周南市との連携事業における講師・テーマ一覧

年度	講師	講義テーマ
2010年度	中島 皇	森里海連環学
	吉岡 崇仁	森・里・海と人々のつながり
	坂野上なお	木材を使うこと～今・昔
2011年度	柴田 昌三	森里海連環学からみた里山
	向井 宏	海を守る森
	寄元 道德	スギ、来た道と生態

受講者の皆さんは熱心で、講義でも講義後のフィールドでも沢山の質問が出て、森のみならず周りの自然に対する関心の高さが感じられます。参加者からは来年度の継続を期待する声も頂いており、周南市とも協議して継続できるように努力しているところです。

3つの地域連携講座（日本財団助成）

海域陸域統合管理学分野 向井 宏

毎年開催している地域連携講座は、今年も以下の3地域において、森里海連環学の立場から、それぞれの地域の団体や自治体と連携して行った。これらは、すべて日本財団の助成によるものである。

○第3回由良川地域連携講座

共催：京都府中丹振興局

「森・里・海の対話～身近な視点から生態系のつながりを考える～」

（京都府福知山市三段池公園・9月24日）参加者：約60名

○第3回仁淀川地域連携講座

共催：仁淀川の「緑」と「清流」を守る会

「国際森林年を「森林・林業再生プラン」実行元年とするために」

（高知県仁淀川町池川中学校・10月8日）参加者：約250名



第3回仁淀川地域連携講座

○第4回別寒辺牛川地域連携講座

共催：北海道厚岸町、標茶町

「森から海へ～海域環境の保全と人の暮らし～」

（北海道厚岸町情報館・11月12日）参加者：約85名

公開シンポジウム「知ろう、守ろう芦生の森ー芦生の森が問いかけているものー」

森林資源管理学分野 吉岡 崇仁

フィールド研の共催で10月15日に美山文化ホールにて開催され、約80名の参加がありました。渡辺弘之京大名誉教授による基調講演で芦生の森の昔と今が紹介されたあと、研究林で実施されているニホンジカの有害捕獲や、市民ボランティアによるシカ防除柵の設置などの取り組みに関わっている様々な立場の方から報告がありました。パネルディスカッションでは会場との質疑応答も活発で、シカ食害や芦生研究



講演会場（講演者は渡辺弘之名誉教授）

林への関心がとても高く、今回のような産官学、様々な立場の関係者が協働した企画が重要であるという意見もありました。昼食時にはシカ肉ステーキやシカ肉じゃがが振る舞われ、

柔らかくてとても美味しいと評判で、シンポジウム以上に盛り上がっていました。

教育ノート

教育関係共同利用拠点としての 公開実習を開始

沿岸資源管理学分野 上野 正博
里山資源保全学分野 中西 麻美

芦生研究林と舞鶴水産実験所を拠点とする実習「森里海連環学実習A」は、森林域、里域、農地、都市などの陸域の環境が、由良川の水質、生物多様性、沿岸域の生物環境にどのような影響を与えているかを分析し、川を通した森から海までを生態系の複合ユニットとして、科学的に捉える視点を育成することを目的としている。今年度は教育関係共同利用拠点としての第一回の公開実習であったが、全国の5大学（群馬大、信州大、慶応大、北里大、奈良大）から参加学生があらまますのスタートであった。

実習は本学からの参加学生も含めて13名で8月8日から12日まで行った。今年度は、森林域を流れる源流、農業地帯を流れる犀川、市街地を流れ下水処理場排水が流入する和久川



流木で覆われた大野ダム湖

の3ヶ所で調査を行い、流域の土地利用による水質変化と水生動物群集の違いを理解しやすいように配慮した。また、河川横断構造物の影響を見るためにダム湖とその下流でも調査したが、本年度5月に2度発生した洪水によってダム湖内は流木で覆われ野外調査の困難さを体験する良い機会になった。

2012年度の公開実習実施予定

全国の大学生が参加できる公開実習を開講します。

詳細は <http://fserc.kyoto-u.ac.jp> を参照ください。

【教育関係共同利用拠点事業】

〈瀬戸臨海実験所〉

- ・発展海洋生物学（2012年8月）
- ・自由課題研究（2012年8月）
- ・海産無脊椎動物の分子系統学（2013年3月）
- ・海産無脊椎動物の多様性と進化学（2013年3月）
- ・藻類の系統と進化（2013年3月）

〈舞鶴水産実験所〉

- ・森里海連環学実習A（2012年8月）
- ・海洋生物科学実習Ⅰ、Ⅱ（2012年8月）
- ・若狭湾秋季の環境と海洋生物実習（2012年9月）
- ・若狭湾春季の環境と海洋生物実習（2013年3月）

【その他の公開実習】

〈芦生研究林・上賀茂試験地・北白川試験地〉

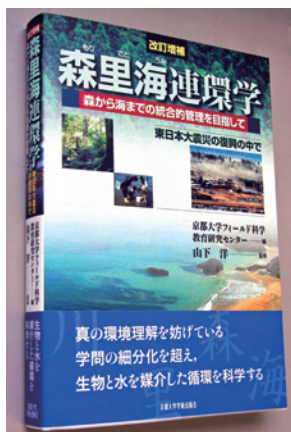
- ・京都大学公開森林実習
「近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴」（2012年9月）

ニュース

『改訂増補 森里海連環学』出版

2007年2月に出版された本書の内容を更新し、森里海連環学を東日本大震災の復興にいかにかに活かすかを考える項を追加して、2011年9月に改訂増補版が発刊されました。

『森里海連環学 森から海までの統合的管理を目指してー東日本大震災の復興の中で』京都大学フィールド科学教育研究センター編、山下洋監修、京都大学学術出版会、386頁 税込 2,940円



和歌山研究林仮事務所

9月の台風12号による土砂崩れに伴う通行止めのため、和歌山研究林の業務は仮事務所にて行っています（期間未定）。

〒643-0521 和歌山県有田郡有田川町清水963-2

旧法務局（清水文化センター北隣）

TEL・FAX：0737-25-0205

「FSERC ニュースメール」配信開始

フィールド研では、2011年10月より、電子メールによるニュースの配信を開始しました。フィールド研のイベントや刊行物等を、月1回程度ご案内する予定です。

配信を希望される方は、メールアドレスと氏名を電子メールにて企画情報室(joho@kais.kyoto-u.ac.jp)までご連絡ください。

活動の記録（2011年9月～11月）

全学共通科目の実施

「森里海連環学実習B」（日本財団助成）

「紀伊半島の森と里と海」

（紀伊大島実験所・9月14～18日）

少人数セミナー（ポケゼミ）

「海産無脊椎動物一分類群と形の多様性」

（瀬戸臨海実験所・9月10～14日）

「海岸生物の生活史」（瀬戸臨海実験所・11月23～27日）

シンポジウム・公開講座等

○公開森林実習

（上賀茂試験地・芦生研究林・北白川試験地・9月5～7日）

○全日空「私の青空」フィールドセミナー

能登空港「きりこの森」派遣講師 柴田 昌三（9月10日）

小松空港「安宅関の森」派遣講師 中島 皇（10月1日）

徳島阿波おどり空港「棠立ちの森」

派遣講師 吉岡 崇仁（11月26日）

○京都大学 ジュニアキャンパス2011

中学生向けゼミ「ナマコの海洋生物学」山下 洋（9月18日）

○第3回由良川地域連携講座（日本財団助成）

「森・里・海の対話～身近な視点から生態系のつながりを考える～」(京都府福知山市三段池公園・9月24日)

○第3回仁淀川地域連携講座（日本財団助成）

「国際森林年を“森林・林業再生プラン”実行元年とするために」(高知県仁淀川町池川中学校・10月8日)

○知ろう、守ろう芦生の森－芦生の森が問いかけているもの－シンポジウム（京都府南丹市美山文化ホール・10月15日）

○第18回京都大学附置研究所・センター品川セミナー

「『森里海連環学』をとおして日本の自然を再考する」

柴田 昌三(京都大学東京オフィス・11月4日)

○第4回別寒辺牛川地域連携講座（日本財団助成）

「森から海へ～海域環境の保全と人の暮らし～」

（北海道厚岸町情報館・11月12日）

各施設等における取り組み

○芦生研究林

研究林実習Ⅰ（8月29日～31日／8月31日～9月2日）

研究林実習Ⅱ（9月13～16日）

芦生の森自然観察会入門編2011（10月22日）*

○北海道研究林

研究林実習Ⅲ（9月4～11日）

○上賀茂試験地

上賀茂試験地 秋の自然観察会2011（10月15日）*

京都市青少年科学センター（共催）未来のサイエンティスト養成事業（11月26日）

○徳山試験地

周南市連携講座（9月11日・11月13日）

周南市連携公開講座（周南緑地（西緑地）・10月30日）

○瀬戸臨海実験所

白浜水族館 施設見学会（10月15日）*

白浜水族館 体験学習（10月22日）

○海域陸域統合管理学研究部門（日本財団助成）

ICM セミナー（10月11日・11月22日）

○木文化プロジェクト

第2回木文化サロン（10月5日）

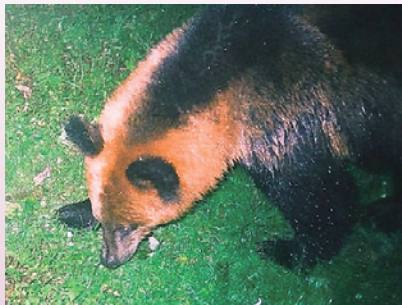
*は、〈京大ウィークス〉参加事業

フィールド散歩

ー 秋の各施設及びその周辺の様子をご紹介ー



カラマツの種子を食べるエゾリス
（北海道・標茶）



白糠7林班に現れたヒグマ
（北海道・白糠）



地元の小学生対象の森林体験学習
（和歌山）



京都市青少年科学センター共催・
未来のサイエンティスト養成事業（上賀茂）



クチナシの果実
（上賀茂）



朝は白い花が、夕方にはピンクに
色づくスイフヨウ（北白川）